

南那珂の普及活動 (普及活動月報)

令和8年7月
南那珂農林振興局
(南那珂農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 南那珂地区農業経営指導士会総会及び意見交換会を開催

6日に、普及センターにおいて、南那珂地区農業経営指導士会総会等が開催され、農業経営指導士7名が出席しました。

総会では、令和7年度活動実績及び8年度の活動計画について報告し、承認されました。

その後、今年度から取組が開始された「南那珂地域基本計画（地域プラン）」に関する意見交換を行いました。農業経営指導士から、地域農業の維持・発展に関する多くの意見をいただきました。

今後も様々な場面で指導士と協力し、いただいた意見を参考に、効率的で効果的な活動に取り組んでいきます。



意見交換会の様子

2) スイートコーン専門部反省会の開催

14日に、JAみやざきはまゆう地区本部串間支店にてスイートコーン専門部の実績検討会が開催され、生産・販売実績の報告や次年度に向けた意見交換が行われました。

今年度は、発芽不良にはじまり、2、3月の低温による霜害、3月末の強風による倒伏や収穫時期の豪雨による作業の遅れ等が発生し、非常に厳しいシーズンとなりました。品質面では2L・L中心となり、前年と比べるとやや小玉傾向で、出荷は5月上旬～中旬にかけてピークを迎えました。平均単価は、他県産の数量が潤沢だったこともあり、シェアを伸ばせず昨年度よりも減少しました。

普及センターからは、アブラムシやアワノメイガに有効とされるオルトラン水和剤の防除効果の検証結果と低コスト型肥料「エコループコーン一発 2243」の施肥効果検証について情報共有を行いました。

今後も、スイートコーンの安定生産に向け、関係機関と連携して支援していきます。



今年度の反省点を熱心に聞く生産者

3) 第13回全共宮崎県出品対策共進会 地域代表牛決定検査が開催

28日に、南那珂地域家畜市場において、第13回全共宮崎県出品対策共進会 肉用種種牛の部に出品する南那珂地域の代表牛決定審査会が開催されました。今回の検査では、各出品区合わせて計19頭が出品されました。月齢に応じた発育、体型等について1頭ずつ慎重な検査が行われ、代表牛として8頭が決定しました。

今後は、9月26日に開催される宮崎県出品対策共進会畜産共進会に向けて、地域一丸となって取り組んでいきます。



審査に向けて準備する出品者

II 主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

No. 1 スマート農業を実装する多様な水田経営モデルの育成

1) 南那珂地域水田経営体ネットワーク会・現地検討会を開催

7日に、管内の大規模水田経営体で組織するネットワーク会員を対象に室内及び現地ほ場での検討会が開催され、会員等8名、関係機関17名の参加がありました。室内検討では、水田営農に関する地域プランの説明やネットワーク会の活動計画及び農地拡大に向け、畦畔除去等補助事業の紹介が行われました。普及センターから昨年度実施した水田裏作に係る実証品目（かぼちゃ、たまねぎ）の実証結果について報告しました。

現地ほ場においては、コシヒカリの乾田直播ほ場について普及センターから実証の概要説明を行った後、生育状況を確認しました。

農業者から質問も寄せられ、関心の高さが伺われました。



地域プラン等説明（室内検討）



乾田直播ほ場での生育確認

2) 飼料用イネ（乾田直播）の生育確認を実施

串間市の「みのさきファーム」のほ場にて、乾田直播した飼料用イネの生育状況確認を随時行っています。生育状況は良好です。

8月上旬には、収量調査を実施予定です。



乾田直播したほ場の様子

No. 2 技術革新により高収益生産に挑む儲かる野菜産地の実現

1) はまゆう地区本部胡瓜部会総会が開催

2日に、胡瓜部会総会が開催され、部会員47名が出席しました。議事では全議案が原案通り承認され、部会長の挨拶では、今期の高温障害やコスト高騰による厳しい状況を振り返りつつ、消費者ニーズに応える魅力ある産地づくりと経営の安定化を目指す重要性が述べられました。また県農産園芸課から、Dプロの取組み方針についての説明を行いました。

普及センターとしても、高温対策や市場ニーズに応じたさらなる品質向上への支援を行っていきます。



Dプロの説明を熱心に聞く生産者

2) 令和8年度JAはまゆう地区本部ピーマン部会総会(新体制設立)が開催

9日に、JAはまゆう地区本部ピーマン部会総会が開催され、部会員49名が出席しました。

旧日南・串間両支部の合併に伴い開催された本総会では、部会規約や役員選任、事業計画等が審議され、全議案が承認されました。前部会長のあいさつでは、各支部で培ってきた技術や文化を共有し、産地全体の底上げと品質向上を目指したいとの思いが語られ、新体制が正式に発足しました。普及センターとしても、産地力強化に向け、環境制御技術の普及や品質向上への支援を継続していきます。



祝辞を述べる普及センター大野課長

3) かんしょ研修会の開催

6日と7日に、JA みやざき串間市大東地区本部と JA みやざきはまゆう地区本部のかんしょ部会員 59 名(夫婦含む)、串間市、JA かんしょ担当職員を対象に、標記研修会が開催されました。

専門技術センターの黒木センター長を講師に招き、かんしょ栽培の考え方と病虫害対策についての研修を実施しました。

普及センターからは、令和 8 年度栽培実証試験計画の説明やサツマイモ基腐病、茎根腐細菌病対策並びに農作業事故や熱中症対策について意識啓発を行いました。

サツマイモ基腐病については、引き続き、生産者及び関係機関が一体となって、その対策に努めて行きます。



病虫害対策の話を聞く生産者達

4) サツマイモ基腐病対策試験ほの調査

9日、10日、15日に管内で令和 8 年度に取り組んでいる品種比較試験などの各種実証ほの発病調査や収量調査を実施しました。

収量調査では、試験系統の品質面について技術員会のメンバーで確認を行いました。また、現時点では実証ほにおいて基腐病はまだ確認されておりません。

8月以降も、病害発生調査や収量調査等を行う予定です。



試験区を収穫する技術員会メンバー



調整作業を行う職員

5) かんしょほ場での病害発生状況調査の実施

27日に、関係機関（串間市、JA、振興局、普及センター）で第3回目のかんしょほ場の定点調査（ほ場数 27 箇所）を行いました。

今回の調査では、1 件のほ場で基腐病、4 件のほ場で茎根腐細菌病が数株程度の微発生で確認されました。

7月に入り、気温も上昇していることから、病害の発生拡大リスクが高まっていますので、来月以降も関係機関と協力して、調査を実施し、生産者に対して適期の病害対策の推進を行っていきます。



ほ場の確認をする職員

No. 4 県内一のかんきつ、スイートピー産地を未来につなげる仕組みづくり

1) JA はまゆう花き部会栽培講習会の実施

13日に、JA はまゆう花き部会の栽培講習会が開催されました。

JA 担当者による定植時の注意事項の説明の後、メーカー担当者による土壌消毒資材の説明および高温対策として効果が期待されるバイオスティミュラント資材の説明がありました。普及センターからは、スイートピーにおける高温対策の考え方や試験場が開発した新品種、今年度の展示ほの概要について説明しました。

今後も各種会議等で積極的に情報提供を行い、産地の活性化と技術の普及に努めていきます。



定植時の注意事項を聞く生産者

2 地域課題一覧に関する普及活動

1) 令和8年度南那珂アグリセミナーを開催

1日から、当普及センターにおいて、就農希望者、認定新規就農者および認定農業者を対象とした農業者研修会が始まりました。第1回の農業経営研修を皮切りに、栽培技術に関する研修など、これまでに7回の研修会を開催しています。

10日の研修では、「安心・安全な農作業経営のために」をテーマに実施しました。前半は、農作業中の熱中症予防対策として、日南市消防本部から講師を招き、応急処置や緊急時の対応、心肺蘇生法などの実演をしていただきました。参加者からは様々な質問が寄せられ、実演にも熱心に取り組む姿が見られました。また、後半は、農業における法改正の動きと対応について、農林水産省の担当者からオンラインで講義をしていただきました。

本研修は全10回を予定しています。今後も参加者にとって有意義な学びの場となるよう、内容を工夫していきます。



真剣に実演を見守る参加者

2) 普及センターで継続的に就農相談を実施

普及センターでは、市の農業再生協議会担い手育成部会と連携しながら、継続的に就農相談を実施しています。4月～7月に市の就農相談会及び普及センターで受け付けた就農相談は延べ9件（日南市8件、串間市1件）、新規就農者の就農計画変更の相談は延べ2件（日南市2件）でした。

新規就農の実現のためには、十分な準備期間をかけて作付け品目検討から融資まで多様な相談を重ねていく必要があります。普及センターでは引き続き、市やJAと連携しながら希望者の確実な就農と、その後の早期経営安定を支援していきます。

3) 南那珂地域農業女性サポート協議会総会・意見交換会が開催

17日に、普及センターで総会・意見交換会が開催され、会長からは「大きく変化
する情勢の中で女性農業者も経営に関わって足腰の強い経営を目指す。」との声が
聞かれ、女性農業者の先進的取組事例の調査や経営改善に向けた研修等に取り組む
事業計画が決定されました。

センター所長からは「普及センター
は協議会の意向に沿って活動を支援
し、経営や地域における活躍を期待
します。」と激励がありました。

併せて（第八次農業長計）南那珂地
域基本について意見交換し、スマート
農業による生産性向上や病虫害防除の
重要性についての発言がありました。



協議会新会長のあいさつ

4) 夏秋ピーマン目揃え会が開催

7日に、はまゆう地区本部夏秋ピーマン
専門部の目揃え会が開催され、選別のポイ
ントや規格の変更点について確認しまし
た。

中間出荷実績と栽培管理についてJAから
説明があり、普及センターからは主要病害
対策の説明と、展示ほ実績について報告を
行いました。作後半に向け支援を継続していきます。



協議を行う生産者

5) オクラ品種比較試験生育調査の実施

3日、15日及び29日に、串間市本城の生産者ほ場にて、JA
はまゆう地区本部の営農指導員と共に品種比較試験を実施し
ているオクラの生育調査を実施しました。

試験区に「キャスバル」、「MS-1380」を対照区に「ジュピ
ター」を栽培し、収穫節数や草高の調査を月2回ほど実施して
います。各品種、順調に生育が進んでおり、それぞれの特徴が
出始めており草丈や収穫節数に差が見られ始めています。

今後は、収穫終了となる11月頃まで生育調査を実施し、本
調査結果を品種の選定に役立てていく予定です。



「ジュピター」の草高調査

6) かんきつにおける高温対策展示ほの設置

2日、7日に、はまゆう・串間市大東管内にて、かんきつ（みかん・きんかん）
の高温対策展示ほを果樹技術員で設置しました。

みかんでは摘果方法の検討・カルシウム資材の活用、きんかんでは頭上散水の
実施・遮熱ハウス資材の活用により、日焼け果・す上がり様症状果の軽減効果に
ついて検証を行っています。

今後、日焼け果・す上がり様症状果の発生状況や温湿度の差など調査を引き続
き行っています。

7) ホオズキの展示ほ調査の実施

近年ホオズキでは、定植後の高温によって実の老化が進み、等級が下がってしまうことが問題視されています。そこで、定植時期を2週間ずらす展示ほを昨年に引き続き設けました。

6日と21日の生育状況調査では、展示区でも、実の数や草丈が順調に伸び、早期に植えたものに追いついてきました。

今後は、収穫後の品質を詳しく調べ、定植時期を遅らせることの効果を検証していきます。



展示ほ（左：対照区、右：展示区）

8) 日南市ほおずき生産者組合における目揃え会の実施

6日に、日南市ほおずき生産者組合で、ホオズキの出荷が始まるのに併せて、目揃え会が開催されました（8名参加）。

室内検討では、JA みやざきはまゆう地区本部担当者から規格の再周知があり、普及センターからは今年度の展示ほの進捗を説明しました。

現地視察では、日南市のほ場を訪れ、生産者同士で活発に情報交換が行われました。

今後も関係機関と連携し、安定した収量確保や産地全体の品質向上に努めていきます。



現地視察

9) 県外視察対応による情報交換

8日に、県域を越えた生産技術の向上と相互の産地振興を目的に、日南市ホオズキ生産者ほ場にて、大分県豊後大野市生産者らと視察研修を実施しました。

研修の中で、各普及センターが両地域の栽培概要や生産技術を情報提供しました。また、現地視察や室内検討中は生産者どうしで活発に情報交換が行われました。

今後も、県内外の産地と積極的に交流を行い、地域の生産技術向上に努めていきます。



ほ場内での意見交換

10) 侵入警戒有害動植物の侵入調査を実施

農産物に重大な被害を与える恐れのある重要病害虫の侵入調査として、アリモドキゾウムシを対象に、フェロモントラップを用いた調査を7月から9月まで実施しています。

12日と28日にアリモドキゾウムシのフェロモントラップ（管内12か所）による誘殺数調査を行った結果、いずれも誘殺は確認されませんでした。

また、ミカンコミバエ種群（管内8箇所）のトラップ調査を実施し、いずれも誘殺は確認されませんでした。

今後も、南那珂地域への侵入・まん延を防止するため、定期的な調査を実施します。

農業者、漁業者、県民の皆さまの「知りたい！伝えたい！相談したい！」にお応えします！



宮崎県農業・水産業ナビ
ひなたMAFiN
Miyazaki Agriculture and Fisheries Navigation

農業・水産業に関する

- 多様な情報をホームページでわかりやすく提供！
- タイムリーな情報をSNSなどを活用して発信！
- 皆さまの思いや意見を集約！

ひなたMAFiN

検索



メルマガ登録はこちら